

2024年度 びわ湖トラスト親子環境学習講座 報告書 ～びわ湖源流の森観察会～

実施日 : 2024年6月8日(土)
 会場 : 森林公園くつきの森
 後援 : 大津市教育委員会、巨木と水源の郷をまもる会
 助成 : 公益財団法人 平和堂財団
 参加者 : 11家族27名(大人:13名・子供14名)
 スタッフ:

【講師】滋賀県立大学環境科学部 籠谷泰行先生

【ガイド】巨木と水源の郷をまもる会 3名

【スタッフ・ボランティア】びわ湖トラスト(理事4名、会員2名、ジュニアドクター受講生2名、その他1名)

行程

9:40 道の駅くつき新本陣集合、参加証確認、健康チェック用紙回収、資料配布
 10:00 点呼、会場へ移動開始
 10:10 森林公園くつきの森到着
 10:20 開会式(コリノキ広場へ挨拶、スタッフ紹介)
 10:40 登山開始前の講義(プリント配布)、登山中の注意、準備体操
 11:00 登山開始、途中随時水分補給の小休止
 12:00 鉄塔のある展望地(最高地点)記念撮影
 12:30 河原に下りて休憩、記念撮影
 12:50 登山終了、昼食
 13:30 やまね館へと移動開始
 13:40 自然観察の振り返り、まとめ
 14:00 クラフトづくり(バードコール)作成開始
 14:40 閉会式(やまね館へ今後のイベント、トラストの活動紹介、挨拶、アンケート回収)
 15:00 解散、随時帰路へ

今年の観察会は例年通りこの時期(6月初旬)に安曇川源流の森林の自然観察、秋はきのご自然観察会となる。昨年は前日に季節外れの台風が襲来して急遽中止となったため、春の観察会は2年ぶりの開催である。今年は例年より梅雨入りも遅れ、晴天に恵まれ無事開催することができた。気温も25度前後で、この時期には比較的暑さも感じられず、湿度も低く快適な山歩きができた。

道の駅くつき新本陣が自家用車の参加者とバスの集合場所で、全参加者が揃った後、森林公園の駐車場まで一緒に移動する。待機していた森林公園のスタッフに迎えられ、山歩きに必要なものを準備して開会式を行うコリノキ広場に移動する。

開会式では、びわ湖トラストの活動を簡単に紹介し、講師やボランティアスタッフの紹介をした後、講師の籠谷先生が質問形式のプリントを配布して滋賀県の概要、植物の分類や、この地域でよく見られる植物の種類とその見分け方などの基礎知識の講義が行われる。その後、森林公園のスタッフから登山中に遭遇する危険性のある動物の写真を見せながら、毒ヘビの見分け方などの説明がある。



入念に準備体操をして、観察会に出発する。最初は、小型の自動車が通れるほどの緩やかな傾斜の道であるが、鹿の食害を防ぐための柵を張った植樹地より急傾斜の山道に入る。ここからは長い一列の隊列となり、講師の先生が先頭で拡声器を持って話しながら、随所で動植物の生態の説明がある。その概要は人が山に入らなくなったことから、鹿などの野生生物が急増し、その結果鹿の食べないアセビ(漢字で馬酔木)などの樹木が支配的になるなど、ここ数十年の生態系の変化の話が中心であった。



途中蔓性の植物に巻かれた樹木の幹や染み出した樹液の中に閉じ込められたアリ、トゲアリが行列をなして木の上に餌を運んでいる様子などが観察される。

水分補給の休憩時には、籠谷先生のズボンの裾にヒルがついていることが確認され、参加者も互いにヒルがついてないか確認する。谷状の下り急斜面を細心の注意を払って下りると、道の脇に山ツツジが咲いており、一輪拝借して蜜を吸うとほんのり甘い香りがする。

ヤッホポイントで毎度のお馴染み、皆で大きな声で対面の斜面に向かって「ヤッホ！」と叫ぶ。「ホ」で留めるのは「ホー」と延ばすところだまが返ってくるのと音が重なるからである。こだまの音が聞こえると子どもたちのどよめきが起こる。



無事川沿いの平坦地に下り着き、踏み跡を下って河原に降り立つ。子供たちは、川の水面に向かって、水平に石を投げあったり、水流の穏やかなところや水たまりにいる生物を探したりしている。アカハライモリが数匹、程なく男の子が見事1匹、2匹と捕まえる。オニヤンマのヤゴも捕まえて小さな透明瓶に水とともにに入れて参加者に見せ合う。この頃から比較のおとなしかった子供たちも一気に盛り上がり始める。

予定より20分ほど遅れてユリノキ広場に戻り、家族単位で昼食をとる。ユリノキは太い枝を地上1メートル位のところから水平に何本も太い枝を出していて、大人が補助すると、子供はその上に乗ることができる。中には頑張って自力で登る子もいる。女の子もこの仲間に加わり、ますます皆のテンションが上がってくる。



午後は園内の施設「やまね館」に移動し、籠谷先生からあらかじめ配られていたプリントの内容について質問され答え合わせをする。プリントの後半は写真に映った植物の名前を当てる問題で、先生が子供に質問すると、午前中とは打って変わってテンションが上がっている子どもたちは積極的に答えを言う。結構正解者が多く、自然に興味を持った家族が参加している事は毎度のことだなと感じる。その後、午後のメインプログラム「バードコール作り」が始まる。



森林公園のスタッフからあらかじめ手順の説明があり、各自が専用の道具(ハンドドリル)を使って円柱形に切られた数センチの木材に穴をあけ金具をねじ込んで戻すの操作を繰り返していると、そのうち小鳥の鳴き声のような音が出て、小鳥はこれを仲間だと勘違いして近寄ってくるという仕組みである。

ほとんどの子供の作品が出来上がったところで、森林公園のスタッフからバードコールの使用時期についての注意がなされる。春は雛鳥が親と一緒に行動しているために鳴らしてはならない。秋になると小鳥たちは成鳥となり、この時期が使用するタイミングだそうだ。

閉会式では、参加者の感想を聞き、この観察会以外のびわ湖トラスト親子環境学習講座の紹介と、ジュニアドクター育成塾の案内、本日ボランティアとして参加した受講生の中学生の活動の紹介をし、森林公園のスタッフと参加理事からの挨拶があって、予定していた15時ちょうどに終了することができた。

大自然の中で長時間過ごすこのイベントは、その分危険を伴うものであり、天候の急変等ハプニングも起こることが予想されるため、緊急時に備えて、予め対応できるスタッフや救急箱等緊急時の装備を準備しての開催である。それだけに参加者が満足げに笑顔で帰られるのを見届けられると、責任者として肩の荷が降りた安堵感と大きな達成感に満たされています。

(文責 びわ湖トラスト観察会担当理事 岩崎功志)

